

開館時間 (火)～(金) ▶ 9時～17時  
(土)・(日) ▶ 9時～16時

■問い合わせ  
多久市立図書館 ☎75-2233

「おすすめの新着本」

「その他おすすめの本」



## ラブレター物語

作・丘 修三  
絵・ささめや ゆき  
(小峰書店)  
ドキドキして忘れ

られない手紙、ラブレター。もったり出したことありますか?この物語は、6つのラブレターにまつわるお話です。今では、メールですませたりするのかな?一番最後に登場する「魔法の薬」は、シーンと心にしみる手紙のお話です。



## 風の海峡 上・下

作・吉橋 通夫  
(講談社)

時代は秀吉の頃、交易をしていた父とともに、幼い頃から釜山を訪れ、親しい友もいた主人公の進吾。しかし、時代の波に飲み込まれ翻弄されていく。その時代に生きた日本側と朝鮮側の若者たちを熱く描いた物語です。



## 上を向いて歩こう

作・佐藤 剛  
(岩波書店)

皆が知っている「上を向いて歩こう」は、日本のみならず世界中の人たちに今も歌い継がれています。多くの人たちを惹きつけてやまない魅力を音楽史を通して解説。発表に至るまでの出来事にもスポットをあてています。

## 子育て支援施設 & 催しのご案内

### 児童館 ☎75-6621

いずれも対象は幼児から小学生までです。

#### ◆母の日のプレゼント作り

日時 5/12(土) 10時30分～、13時30分～

#### ◆おりがみあそび

日時 5/19(土) 10時30分～、13時30分～

#### ◆メルヘンタイム

日時 5/26(土) 10時30分～、13時30分～

#### ◆父の日のプレゼント作り

日時 6/2(土) 10時30分～、13時30分～

#### ◆おりがみあそび

日時 6/9(土) 10時30分～、13時30分～

#### ◆母と子のサロン

日時 毎週火曜日 10時～12時

### 子育て支援センター

☎75-5780 (杉の子保育園内)

#### ◆子育てクラブ「わくわくランド」

日時 毎週木曜(祝日休み) 10時～12時

場所 多久市児童館

#### ◆園庭開放 (杉の子保育園内)

日時 月～土曜日(祝日休み) 9時～14時

#### ◆子育て相談 (電話相談可)

日時 月～土曜日(祝日休み) 9時～17時

### このゆびと～まれ

☎74-3241 (中央公民館)

子育てのこといっしょにお話しませんか。

#### ◆着付け教室

日時 5/1(火)、7/3(火) 10時～12時

※6月はお休みです

【5月の行事】  
「おすすめ本のしょうかい」  
■日程 5月8日(火)まで  
■場所 図書館児童室  
【5月の休館日】  
3日(木・祝)、4日(金・祝)、5日(土・祝)、7日(月)、14日(月)、21日(月)、28日(月)

- | 児童向き                      | 一般向き                    |
|---------------------------|-------------------------|
| ◆森をつくる (有川美紀子、鈴木創)        | ◆SAMURAI・J.P.2号 (田川 清美) |
| ◆ソーラーカーで未来を走る (木村 英樹)     | ◆浮世女房洒落日記 (木内 昇)        |
| ◆あかいぼうしのゆうびん屋さん (エインスワース) | ◆老年の品格 (三浦 朱門)          |
| ◆うたごさん (植垣 歩子)            | ◆ていねいなおかず (朝日新聞生活グループ)  |
| ◆日本のもと米 (服部 幸應)           | ◆切手百選昭和戦後 (内藤 陽介)       |

5月5日は、子どもの日。国民の祝日に関する法律によれば、「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかる」とともに、「母に感謝する」ことを趣旨としています。「母に感謝する」とは知らなかったのが調べてみると、昭和23年に「子どもの日」ができた当時、「子どもが生まれ育つ上で、どれほど母親の役割が大きいかということ、考えてもらうためにもせめて子どもの日くらい、母に感謝するということを盛り込もう」ということになったそうです。この事を知った時、絵本『いのちのまつり・つながっている』(サンマーク出版 著者 草場一壽)を思い出しま

## No. 181 人権教育 生きる

### 「子どもの日」

した。絵本は、お母さんと赤ちゃんを繋ぐへその緒を通して、いのちの繋がりと人と人の繋がりを伝えていきます。草場さんは、「おへそをみるたびに、思い出してほしい。どんな時代も生きぬいてきた、たくさんのお母さんがいたことを…。おへそに触れるたびに感じてほしい。お母さんを通して、いのちはひとつに繋がっていることを…」とおっしゃっています。

私がここにいるということは、その先には、数え切れない母親が、数え切れない赤ちゃんを産み、数え切れないほどたくさん抱きしめてきた過去があるからです。今の私は、たくさんいのちを受け継いだだけがえのない存在です。

そんな事を考えていたら子どもの日は、生んでくれてありがとう、生まれてくれてありがとうと、親子が互いに感謝し合う日なのではないかと思えてきました。いのちの大切さや、人を思いやる心・感謝する心などについて、家庭の中で話し合おうにしたいと思います。

社会教育指導員 野中久美子